

諏訪之瀬島の火山活動解説資料

福岡管区気象台

地域火山監視・警報センター

鹿児島地方気象台

＜噴火警戒レベル3（入山規制）が継続＞

御岳^{おたけ}火口では、活発な噴火活動が続いています。

本日（31日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が鹿児島県の協力により実施した上空からの観測では、飛散した噴石と考えられる高温部も確認しました。火口内及び火口周辺の地熱域の状況は、前回の観測（3月22日）と比べて特段の変化はありませんでした。

【防災上の警戒事項等】

御岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況（図1～4）

御岳^{おたけ}火口では、昨日（30日）から本日（31日）にかけて火口中心から1km近くまで飛散する大きな噴石が複数回観測されており、噴火活動が活発化しています。

本日、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が鹿児島県の協力により実施した上空からの観測では、同火口内から灰白色の噴煙が上がっていることを確認しました。赤外熱映像装置による観測では、飛散した噴石と考えられる高温部も確認しました。火口内及び火口周辺の地熱域の状況は、前回の観測（3月22日）と比べて特段の変化はありませんでした。

昨日から爆発が増加しており、昨日は19回、本日は15時までに17回（速報値）発生しています。昨日22時05分の爆発及び本日02時57分の爆発では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口からそれぞれ南方向と南東方向に1km近くまで飛散しました。この他にも火口から数100m程度まで飛散した噴石を複数回観測しています。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、同火口から南南西4kmの集落で時々鳴動が確認されています。

傾斜計による地殻変動データに、大きな変化はみられていません。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/index.html>）や気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学及び十島村のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

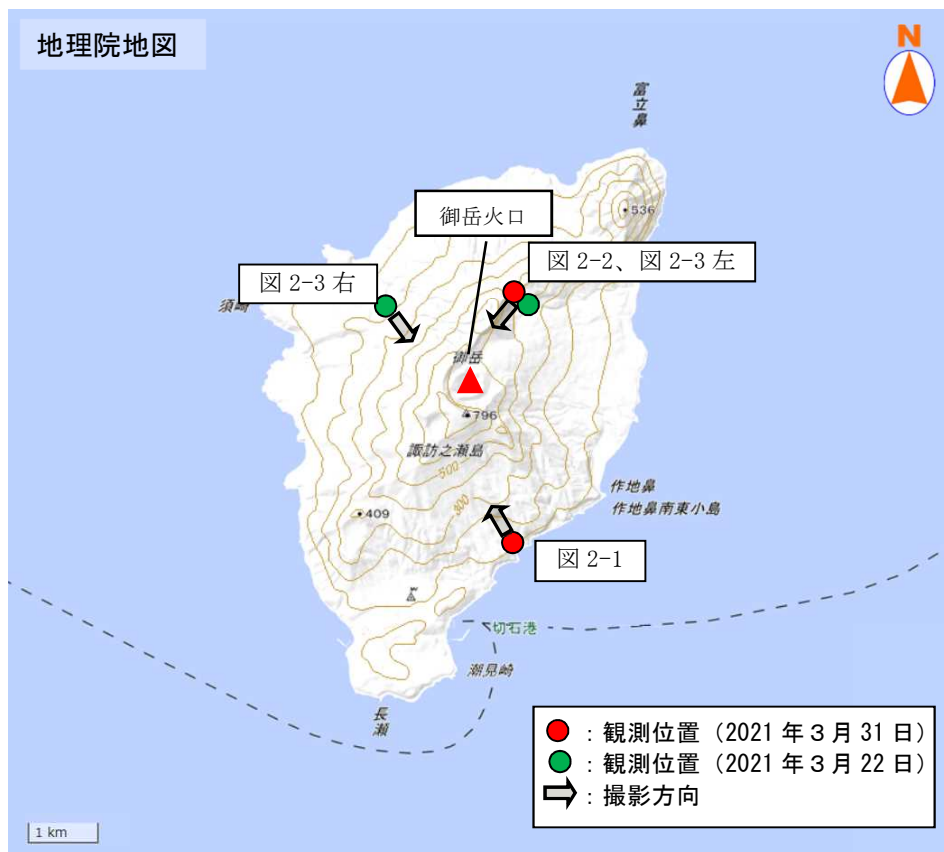


図 1 諏訪之瀬島 調査観測位置図 (図 2 の観測位置及び撮影方向)



図 2-1 諏訪之瀬島 御岳火口周辺の状況 諏訪之瀬島南南東側上空から撮影 (2021 年 3 月 31 日)
御岳火口から灰白色の噴煙が上がっていることを確認しました。



図 2-2 諏訪之瀬島 御岳火口内の状況 諏訪之瀬島北北東側上空から撮影（上：2021年3月31日、下：2021年3月22日）

御岳火口から灰白色の噴煙が上がっていることを確認しました。前回の観測と比べて火口内及びその周辺部の状況に特段の変化はありませんでした。

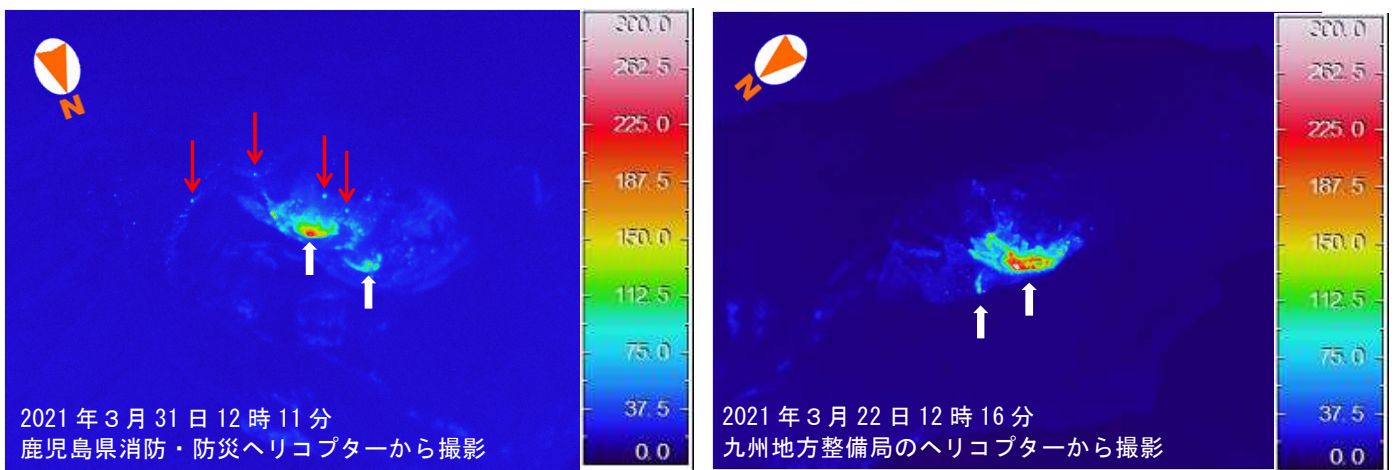


図 2-3 諏訪之瀬島 御岳火口内の状況 諏訪之瀬島上空から撮影（左：2021年3月31日、右：2021年3月22日）

御岳火口内及びその周辺で引き続き地熱域を確認しました（白矢印）。また飛散した噴石と考えられる高温部を確認しました（赤矢印）。

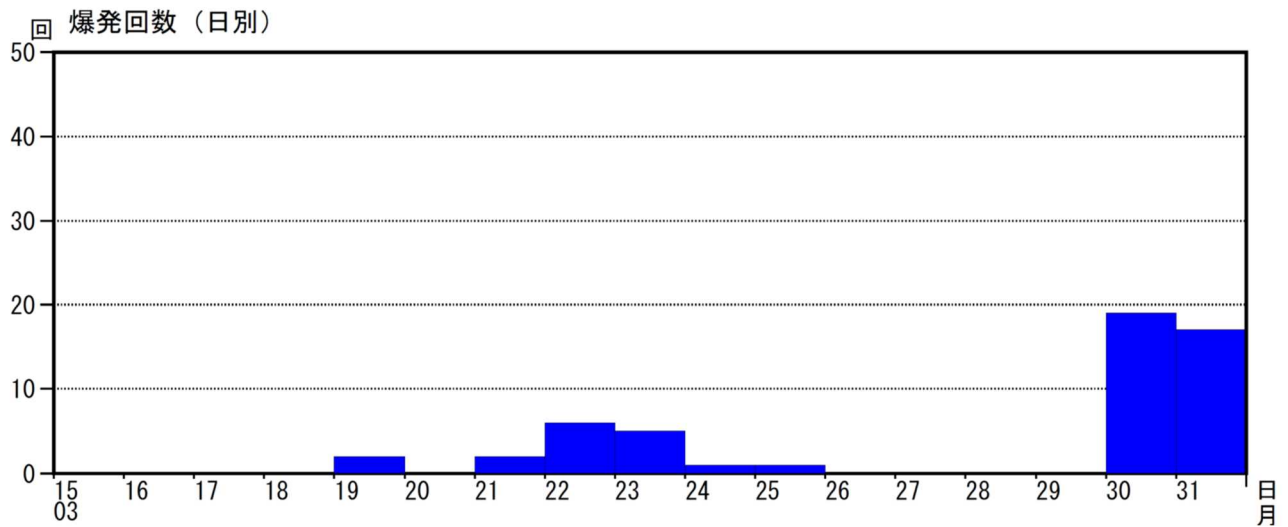


図3 諏訪之瀬島 爆発の日別回数 (2021年3月15日~31日15時速報値)

昨日(30日)から爆発が増加しており、昨日は19回、本日(31日)は15時までに17回(速報値)発生しています。

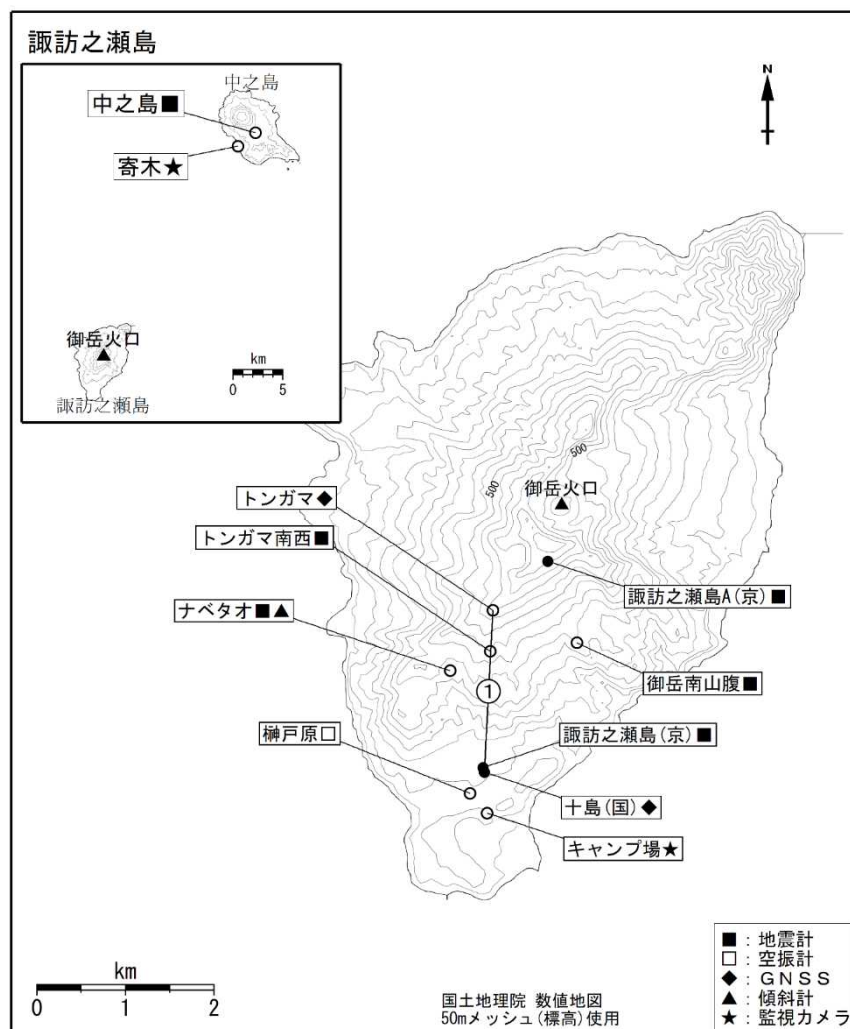


図4 諏訪之瀬島 観測点配置図とGNSS連続観測による基線番号

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院、(京): 京都大学